

# 3歳児 保育指導案

尾道市立木ノ庄東幼稚園

- 1 日時 令和元年11月13日(水)
- 2 場所 保育室, 園庭, わくわく広場
- 3 学級 3歳児 りんご組 19名(男児11名 女児8名)
- 4 幼児の姿と教師の願い

## (1) 幼児の姿

### ① クラス全体の子供の姿

身の回りの始末や朝の支度など、自分でできることが増え、自信をもって園生活を送る様子が見られる。「僕がやる!」「できたよ!」等、自分のことが自分でできたことを嬉しく感じている。「おにごっこしたい!」「今日はおままごとするの」等、自分のやりたい遊びに意欲的に取り組み、夢中になって遊ぶことができる子供が多い。気の合う友達ができてきて、「今日遊ぼうね」「一緒にこれしよう」と友達を誘って遊ぶ姿が見られるようになってきている。友達と同じ遊びをすることややりとりをすることに嬉しさを感じている。中には、登園時や給食の時間などに気持ちが不安になってしまい、教師と一緒に過ごすことで安心する子供もいる。

### ② 遊びにおける子供の姿(本日の遊びに至るまでの経過)

戸外でドングリや木の実を使ったごちそう作りをするなど、秋の自然物を遊びに取り入れて楽しむようになってきた。葉っぱや木の実をごちそうに見立てて、ラーメンやジュースを作っている。手押し車に葉っぱを乗せて運び、ごちそうを作っている友達に届けることを楽しむ姿もあった。友達を誘って遊んだり、言葉のやりとりを楽しんだりすることが増え、友達との関わりが広がっている。また、運動会で踊りを踊った経験から、体を動かして踊ることを楽しむようになり、自分で作ったドレスやアイテムを身に付けて踊っている。

保育室では、自分達で作ったドングリのケーキやキャンディーを使ってお店屋さんごっこをすることを楽しんでいる。また、廃材や新聞紙、画用紙などを使って、自分がイメージしたアイテムや服などを作っている。作った服やアイテムを身に付けて、友達と一緒になりきって遊ぶことを楽しむ姿があった。教師や気の合う友達を誘って遊び、「いらっしゃいませ」「これ美味しいよ」と教師や友達とやり取りをする姿も見られるようになってきた。友達への関心が深まっている一方、自分の思いを上手く伝えられずトラブルになる姿も見られる。

## (2) 教師の願い

秋の自然物で遊ぶ楽しさを感じられるようにしたい。遊びに使うドングリや木の実を整理し、色々な秋の自然物を使ってイメージしながら遊ぶことができるようにしたい。教師は、子供たちの発見や喜びに共感し、一緒に遊ぶことで子供の思いに寄り添いたい。

教師も一緒に遊びながら、友達の思いに気が付いたり、自分の思いを伝えたりできるような声かけをする。トラブルがあった時には教師が仲立ちをして互いの思いを代弁し、友達と遊ぶことの楽しさを感じられるようにしたい。